

マイアミの街の夢 不動産投資事情

コアラ社長の

最近、日本国内ではよくマイアミを紹介するテレビ番組が放映されているらしく、マイアミ不動産の活況について質問を受けることが多くなった。

一通り現在の市況をお話させていただくと、ほとんどの人がマイアミへの渡航を具体的に検討される。不動産投資のための視察と合わせてマイアミビーチや少し足を伸ばしてキーウェストへの観光を希望されることが多いため、投資ツアーにも市内観光やマイアミならではの食事ができるレストランを組み込むようにしている。

そんな中、今回は毎回質問を受けるマイアミへのフライトに関してお伝えしましょう。

日本からだけでなくアジアからマイアミへの直行便は現在のところ存在しない(最近、韓国系のエアラインで直行便運航の噂がある程度)。したがって成田、羽田、セントレア、

関西などの主要空港から北米の主要都市へ飛び、乗り継ぎをしてマイアミにたどり着くことになる。ドアツードアで約1日を要すると考えておけば無難だ。14時間(サマータイムは13時間)の時差があるため往路は出発した同日に、復路は1日プラスをすることに注意する必要がある。

費用は往復エコノミークラス(燃油サーチャージ込み)で12万円台と想像よりも安いという印象を持たれることが多い。ビジネスクラスでは70万円前後となる。

一般的に東回りルートは時差ボケが辛いと言われるが、確かに私の経験からしてもその現象は明らかだ。投資ツアー

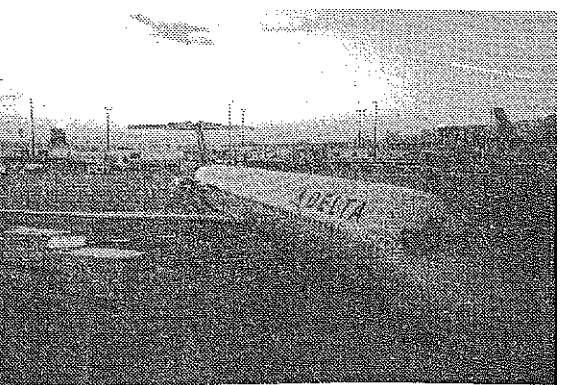
においてもランチ後の移動時間は強い睡魔に襲われて殆どの人が寝落ちしてしまう。アメリカ人の友人などは睡眠薬やハーブ系の睡眠導入剤を使って機内でぐっすり眠り、快適に過ごす。これも一つの工夫である。

また、ホノルル経由という方法もある。

通常格安航空券でもトランジット先で1度、ストップオーバーが認められる。したがって日本→ホノルル→ロサンゼルス→マイアミというルートをとったり、中継地点で宿泊して休憩を取りながら時差調整もするというのもお勧めだ。昨日はワイキキビーチ、今日はサンタモニカビーチ、明日はマイアミビーチとアメリカのベストビーチを楽しむことも可能である。

復路では、マイアミ→ニューヨーク→成田と飛びマンハッタンの摩天楼や自由の女神像の観光を楽しむルートもお勧めである。

乗り換えは必須、中継地点で休憩や観光も



マイアミのフライト

1都市24時間以内の滞在であればストップオーバーとならず、あくまでトランジットとすることで追加料金も発生しないため、いくつかのアメリカの主要都市に滞在することもできる。マイアミへの旅は日本から一番遠いアメリカならではの工夫次第で楽しめるのである。(小原隆浩)

隔週掲載